

自信を持って積極的に行動できる子

はじめに

4月よりA小学校心身障害児学級より編入したS・K児は身辺自立もほぼできており、真面目に物事に取り組み、素直な子である。学習能力も小学部の中では、比較的高いほうであるが、言語障害のため発音がはっきりせず言葉でのコミュニケーションがスムーズにいかないことがある。また人見知りがあり、特に初対面の人の前やたくさんの人の前では恥ずかしがって友達や物の影に隠れたりすることがよく見られる。そこでS・K児が自信を持って積極的に行動できるためにどのような手立てをとってきたか述べてみたい。

1、S・K児の実態

○昭和52年1月1日生。言語障害。

○遠城寺式乳幼児発達検査の結果は次の様である。

移動運動	手の運動	基本的習慣	対人関係	発語	言語理解
4才8ヶ月	4才8ヶ月	4才8ヶ月	4才8ヶ月	4才0ヶ月	4才8ヶ月

・運動、社会性に比べ言語（発語）が低い。

○ムーブメント教育プログラムアセスメントから

ムーブメント教育プログラムアセスメントによる調査では右の表のような結果が得られた。この表からS・K児は言語、社会性に比べ運動・感覚が高いことがわかる。このことは運動・感覚を更に伸ばしていくことで言語、社会性を押し上げていくことができるのではないかと考えられる。各分野によってでき方に多少バラツキは見られるが、全体的に高得点でバランスよく発達していることがわかる。

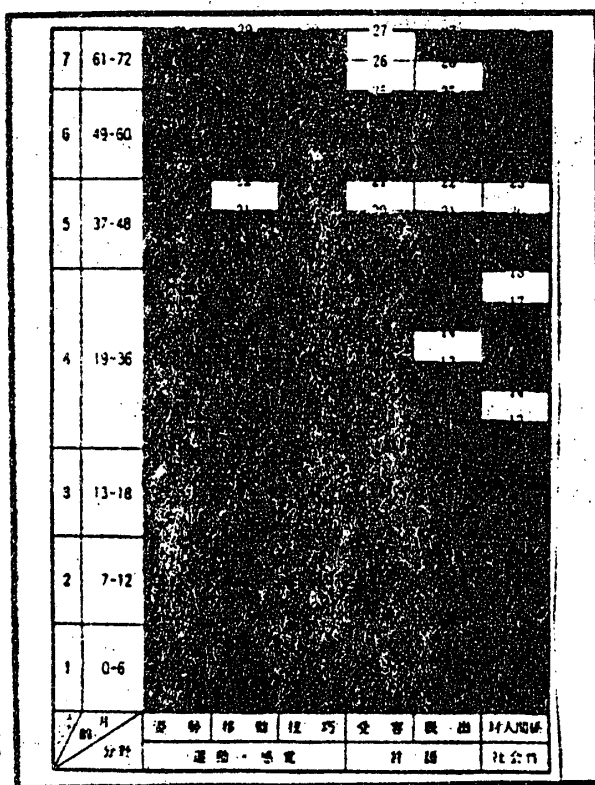
○抽出養護・訓練の先生によるボディチェックでは呼吸の仕方に問題があることが分かった。これは息の吸いこみがうまくいかず酸素の供給量が少ないということで歌を歌ったりする時にそのことが顕著に見られる。

○言葉がはっきりしないため言葉での意志伝達がうまくできず、身振りで伝えようとするのがよくある。

○50音による発音のチェックでは次の様な発音のおかしさが認められた。

かた	くつ	こと	しち	すつ	せちえ	そと	つとう	るゆ	ねいえ	ろごお
----	----	----	----	----	-----	----	-----	----	-----	-----

50音の中で特にか行とさ行に問題がある。これは口形及び舌の使い方に問題があると考えられる。



MEPAプロフィール表

2、個人目標とつきたい力

先に述べたような本児の実態から個人目標並びにつきたい力を次の様に設定した。

○個人目標 『自信を持って積極的に行動できる子』

○つきたい力 ・はっきりと発音できる力

・誰とでもスムーズにかかわっていける対人関係

このつきたい力をつけ、個人目標に迫っていくため更にはからだの個人目標とその他の個人目標を次の様に設定した。

●からだの個人目標 色々な運動に取り組みからだを動かすことを楽しむ子

●その他の個人目標 色々な場面で積極的に自己を表現できる子

3、指導仮説及び指導の重点と方法

本児が自信を持って積極的に行動できるためには、比較的能力が高く好きな運動面をしっかりと伸ばしていくことと、本人も苦手を感じている言葉の力を養うことが色々な面への自信につながっていくのではないかと考え、次の様な指導を行なうことにした。

○ダイナミックな遊びにどんどん取り組ませ、からだをしっかりと使わせることで十分な酸素の供給を図ると同時に、心の開放を図り緊張を和らげ、友達との関係を広げさせる。(遊びの時間)

○正しい発音の仕方を学習し、自信を持って言葉でのコミュニケーションができるようにする。(個別、養護・訓練)

○学級以外の人とかかわる機会をもたせ、どんな人ともスムーズにかかわっていける対人関係を養う。(日常生活指導)

以上の3点を指導の重点として指導を行なっていくことにした。

4、指導実践例

(1) 遊びを中心とした運動の指導

・遊びの実態

4月からの本児の主たる遊びの実態 と手立て

月	遊びのようす	手だて
4月	・天気の良い日には外に出て自転車に乗ることが多い。一緒に自転車に乗って遊べるような友達もなく、一人で遊んでいることが多い。	・能力的に大きな自転車で走れるような友達がいないので、先生と一緒に自転車で競争したりさせる。
7月	・実習中に作った水鉄砲を使って外の砂場で水遊びをすることが多い 時々学級の友達と遊ぶがまだ一人が多い。	・水鉄砲を使って友達と遊べる遊び方(的当て等)を教える。
10月	・校庭におかれていた工事用のロードローラーの運転席に座って運転の真似をしたり自転車に乗ったりして遊ぶ。	・同じ場所にいることが多いので栗山やつり橋の方に誘ってみる。
12月	・自転車乗りに加え校庭の遊具(タイヤ、うんてい等)を使って遊ぶことも見られだした。	・遊具を使っての色々な遊び方を教える。更に本人対教師の関係から友達との関係に発展させるようにした

・本児の遊びの実態を見ると、校庭を力一杯走り回ったり、校庭の遊具を積極的に利用するような遊びが少なく、また友達同士よりも一人で遊ぶことの方が多かった。そこで上記のような指導を加えてきたが、その結果友達を意識して友達に負けまいと頑張ったり、つり橋を渡ったりする時でも自分で難しい渡り方を工夫して渡ったりする等、遊びへの意欲や遊び方に変化が見られだした。またこれまで自分から友達を誘ったりすることはほとんどなかったが、自分の方から声をかけて誘うことも見られだした。

(2) 個別を中心とした言葉の指導

週2回の個別学習の時間には主に腹式呼吸の習得をねらって息を大きく吸う、吐くの練習とカードを使って正しい発音の練習を行なった。内容としては次の様なものである。(場所 体育館)

ランニング	セラピーボール上での呼吸	カードを使っての言葉の練習	仰向けになっての呼吸の練習
-------	--------------	---------------	---------------

このような内容を約30分間の中で行なってきたが、この中でセラピーボール上での呼吸と仰向けになっての呼吸の練習における変容を見てみると次のようである。

	5月	11月
セラピーボール上での呼吸	<ul style="list-style-type: none"> ・セラピーボールの上に乗ると体、特に手足が緊張して、体が棒のようになる。 ・リズムにあわせて呼吸をしようとするが、息を十分に吸うことができず、しばらくすると苦しそうにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめはやや緊張気味であるが、体の力を抜くように指示すると、手足をだらりとさせて力を抜くことができた。 ・早いリズムでの呼吸にはまだついていけないが、呼吸の量が増えたようで、長い時間乗れるようになった。
仰向けになっての呼吸	<ul style="list-style-type: none"> ・腹式呼吸をさせようとお腹に息を吸いこむように指示するが、やり方がわからずに咽に力を入れて息を吸いこもうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まだ腹式呼吸はできないが少しずつ意識し、お腹を出したり引っ込めたりしながら、呼吸をするようになる。

(3) 日常生活指導を中心とした対人関係の指導

本児は身近な人以外の人に対して極端に人見知りをしたりすることがあり、そのため対人関係がスムーズにいかないことがよく見られた。その様子をいくつかあげてみると次の様なものがあげられる。

月	よ う す
4	<ul style="list-style-type: none"> ・朝廊下で他クラスの先生に出会うと入り口の方に隠れたり、傘を隠して通りすぎようとする。 ・着替えを恥ずかしがり角の方でしようとする。養護の先生やお母さんが入ってくるとオルガンやテーブルの下に隠れる。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・少年自然の家で、本校に来るまで通っていた小学校の時の友達と会うが、友達の声がすると部屋の戸を開けて顔を見ないようにする。

7	<ul style="list-style-type: none"> ・購買に買物のお買いを頼むが、購買の前を何度も行ったり来たりして結局買えず。 ・事務室に掃除用の古新聞をもらいにいくように頼むが、事務室の戸の前に立っていたり、湯沸室に入ったりしてもらえず。
---	--

このような本児の実態から、対人関係の指導では、学級→学部→学校へと対人関係を広げていくようにした。その中で学級、学部以外の人との対人関係を深めるために、掃除で使う古新聞を事務室に貰いに行く係りをさせるようにした。その変容を見てみると次のようである。

	実 態	手 だ て
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞をもらってくるように言うと、元気がない返事をして事務室の方へ行くが、事務室の中に入ることができず、外で中の様子を見たり、隣の湯沸室の中に入ったりしていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最初はしばらく様子を見と後で一緒に事務室の中に入り『新聞をください』と一緒に言い、そのあと一人で言わせるようにする。
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞をもらってくるように言うと『はい』と返事をして事務室の方へ歩いていき、中に入って新聞をもらってくることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞をもらいに行く前に、教室で『新聞をください』と練習させ、上手に言えることを誓めて、自信をもたせるようにする。

5、考察

これまでの本児の様子から、人の前に出て積極的に何かをするというような機会が少なく、また知的なレベルが高いことなどから他の友達と比べて何らかの自信のなさを自分自信で感じているように見受けられた。特に言語面に関してはそのような感じが受け取られるので、本児にとってはまず励ましや称賛の言葉かけをどんどんしてやって、少しでも自信を持たせることが、積極的に行動できるようになる道ではないかと考えるが、2月の学習発表会では、たくさんのお客さんが見ておられたにもかかわらず、大きな声で台詞を言ったり、のびのびと演技をする等人の前でも自信を持って行動できるようになってきたので、更に積極的に行動できるようになるものと期待している。

6、今後の課題

運動面に関しては今後も校庭をいっぱい使うような大きな運動に積極的に取り組ませていくことが必要であるが、訓練的な運動では進んで取り組むことが難しいので、楽しくしかも運動量の豊富な遊びを工夫していく必要がある。また言語面は、長い時間をかけて少しずつ練習を重ねていかなければならないが、家庭での指導も大切であるので、家庭でできる練習等も考えていく必要があると同時に、本児が緊張せずにリラックスして言葉がどんどん出せるような環境や雰囲気作りを工夫していくことが必要である。

(松本洋介)